

平成21年度特別展

# 人、和して楽しむ

岐阜の文楽



## —ごあいさつ—

「文楽」は、日本を代表する伝統芸能の一つです。2003年にはユネスコにより「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」を受けました。岐阜県においても、江戸時代から西国の人形遣いによって伝えられたとされます。伝統の技は今なお、室原文楽(養老町)・真桑文楽(本巣市)・半原操り人形浄瑠璃(瑞浪市)・大井文楽(恵那市)・恵那文楽(中津川市)と「翁舞」として付知町翁舞(中津川市)の各保存会によって受け継がれています。

今回の展示では、県や市町村の文化財に指定されている人形のかしらを中心に、衣装などの資料や往時の人形遣いから現在の保存会の活動までを展示紹介します。

「文楽」をはじめ伝統芸能は難しいものと思われがちです。今回の展示が伝統芸能に親しむ入口となり、地域で傳承されてきた伝統文化を未来に受け継ぐ力になればと願っています。

最後に特別展の開催にあたり、多くの関係機関や関係者の皆様に多大なるご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

平成21年9月

岐阜県博物館長 浅野裕司

## 一 文楽の歴史

文楽は、16世紀末に節ふしに合わせて物語を語る浄瑠璃じやうるりに三味線さんまいせんが、そして人形芝居にんぎょうしばいが結びついて成立したといわれています。竹本義太夫たけもとぎだいのうの義太夫節ぎだいのぶしと近松門左衛門ちかまつもんざゑもんの脚本により、人気を得て、18世紀半ばに大坂で全盛期をむかえました。19世紀初め、淡路の植村文楽軒うゑむらぶんらくけんが大坂ではじめた一座が、最も有力で中心的な存在となり、やがて文楽は人形浄瑠璃の代名詞となり今日に至っています。

このことから、岐阜県でも、保存会の名称などで「〇〇文楽」という言い方をしています。



◆近松門左衛門像『難波みやげ』（国立文楽劇場写真提供）

## 二 三番叟 幸を願う

三番叟さんぱんそうは、五穀豊穰ごこくほうじやうなどを願う演目で、四つの保存会（真桑・半原・大井・恵那）では、芝居を演じる場を清める意味から演じています。付知の翁舞つきちのおきなまいは、毎年九月の五社巡祭ごしゃめぐりまつりで奉納しています。

また、文楽とは別に街角の芸能として箱廻しはこまわしの「三番叟廻し」「戎廻しえびすまわし」があります。お正月から春にかけて三番叟や戎の人形を箱の中に入れて、家々を廻りました。



◆昭和34年正月の徳島（徳島県立博物館写真提供）

## 三 三業 三位一体の技

文楽ぶんがくは、太夫たう・三味線弾きさんまいせんはじ・人形遣いにんぎょうぢいの三業さんごうによって成り立っています。「話を語る」太夫と「音を奏でる」三味線、「人形を操る」人形遣いによって演じられる人形芝居にんぎょうしばいです。



◆太夫と三味線弾き（真桑文楽保存会）



◆人形遣い（半原操り人形浄瑠璃保存会）

# 楽しむ

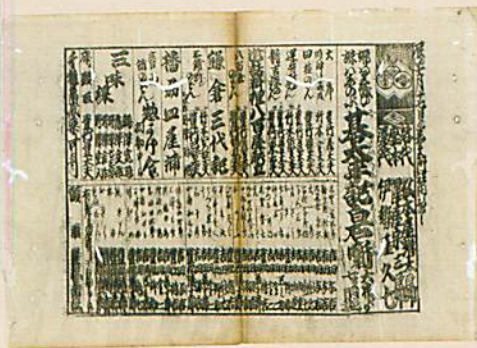
## ～岐阜の文楽～



### 四 岐阜の文楽

#### ① 先駆者

19世紀半ばから末頃には、大坂の人形遣いが地方に下り、村人に人形の操り方を指導したといわれています。真桑文楽よしだぶんごの吉田文吾とよまつくにはちとその子三代豊松国八きんご、吉田金吾きりたけもんぞう（後の二代桐竹門蔵）と三宅文楽みやけの初代・二代の豊松清十郎とよまつせいじゅうろうです。彼らは、村人への指導のほか、専門の人形遣いとして名古屋の若宮芝居などで興行しました。



◆浄瑠璃芝居役割番付 若宮芝居  
安政3年(1856)10月17日  
(学校法人越原学園蔵)



◆「吉金」と墨書された桐串(真桑文楽保存会蔵)

#### ② 様々なかしら

文楽の魅力の一つに かしらがあります。見せる表情に変化があり、見るものを引きつけます。かしらは、一部の専用のものを除くと、基本的にはいくつかの種類を役柄の性別や年齢、性格にあわせて使いわけます。男役たちやくを立役たちやくといい、女役おんながたを女形おんながたといいます。大坂文楽では、かしらに「首」の字を、阿波・淡路では「頭」の字を使います。



◆一人遣いのかしらと手  
(梶操人形保存会蔵)



◆一人遣いのかしら  
(室原文楽保存会蔵)



◆大ガニ  
(真桑文楽保存会蔵)



◆梨割(半原操り人形浄瑠璃保存会蔵)



◆坂東  
(恵那市教育委員会蔵)



◆白太夫(恵那文楽保存会蔵)

### ③ 伝承をまもる文楽

岐阜県では、室原文楽(養老町)・真桑文楽(本巣市)・半原操り人形浄瑠璃(瑞浪市)・大井文楽(恵那市)・恵那文楽(中津川市)・付知町翁舞(中津川市)の六つの団体があります。文楽は、第2次世界大戦、戦後の娯楽や地域共同体の変化などで伝承が跡絶える危機がありました。このような状況でも、これらの団体は、年長者から若者への技の伝承を地道に続ける努力をしてきました。平成7年には、岐阜県文楽・能保存振興協議会が発足して、毎年発表の場として大会を行うなど盛んになりつつあります。

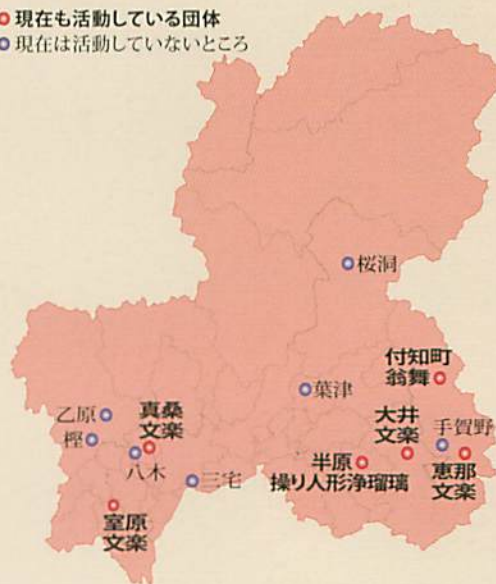
しかし、その一方、後継者不足などの悩みを抱え、伝承に課題があります。



◆昭和26年大井文楽の上演会  
大井劇場にて  
(恵那市教育委員会写真提供)

#### この展覧会で紹介している文楽

- 現在も活動している団体
- 現在は活動していないところ



### ④ 伝承が跡絶えた文楽

伝承を守ってきた6つの地域のほかに、過去にはやっていたという言い伝えや人形のかしらや道具のみが残っている地域があります。今回の展示では、八木(大野町)・三宅(岐南町)・葉津(七宗町)・手賀野(中津川市)・桜洞(下呂市)・乙原(揖斐川町)・榎(揖斐川町)の資料を紹介します。

### ⑤ 未来への継承

各保存会では、次世代へ伝承するために小学校や中学校のクラブ活動の支援、地域外に伝承の仲間を広げる活動など、伝統の技を伝えるために様々な活動をしています。



◆養老町立日吉小学校ふるさとクラブによる  
「絵本太功記十段目 尼ヶ崎の段」



◆半原操り人形浄瑠璃保存会の公民館講座  
(瑞浪市教育委員会写真提供)